

キオマ通信

20230506 VOL.5 YURIE_HA



Water garden : ISuN

キオマ通信

20230506 VOL.5 YURIE_KU

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

今月のイラストについて：純粋な水が集う庭内在するフラワーオブライフ（イスン）



食べると元気になるのは、自分で作ったコロッケ。実家がお惣菜屋さんで、こどもの頃からお客さんのコロッケを作っていました。伝票を持って、幼稚園とか会社とか診療所とかに、いつもありがとうございます、と配達に行っていました。

光を生きるあなたへ

光ンヤン

第5回 「絶対の光の世界が始まる」

ヲキンンヤン ありがとうございます。

写真①は、4月28日、午後の3時の今治市の空です。
太陽の周りにうっすらと虹のようなものが見えますね。
これは「ハロ」と呼ばれ、雲の中の氷の粒に太陽の光が屈折してできる現象です。

でもこの日は気温が20度近くあって、氷の結晶って、どうなんでしょう？

いずれにしても、これは吉兆な証で、この2時間後の同じ今治の空に写真②が現れていました。

空を見上げるととても強い響きを感じ、大きな躍動があります。
よく観ると、まるで天空に穴が開いたようにも観えますね。

この雲の状態を分かりやすくすると、写真③です。

これらはすべてギャーナの回転になっていて、G1からG8までがすべて揃っておりました。

これは、今治全体が、7次元に目覚めたことを示します。

今後、人々は絶対の光の中で生きるようになります。
この時、これまで光を生きていた人も、闇を生きていた人も、皆が相対で生きることができなくなり、進化しなくなるでしょう。

つまり、今形の4次元を生きている人も、闇の5次元を生きている人も、光の6次元を生きている人も、誰も進化できなくなる、ということです。

皆さん、今こそ、進化の苦しみを本気で求める時です。
そして進化しようとする意図を持ってください。

ヲキンンヤン ありがとうございます。

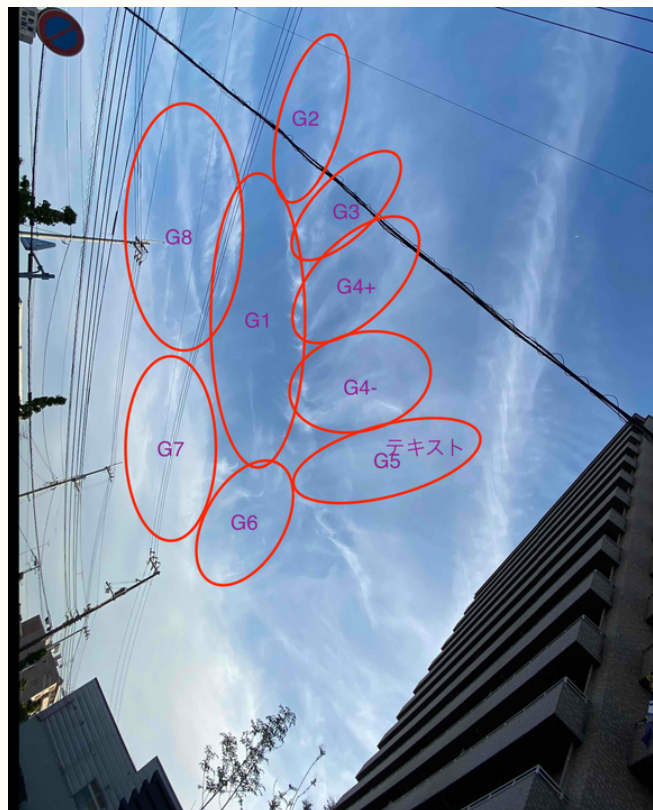
写真①



写真②



写真③



食べると元気になるのは、作る方が、食べる人に光を観ようとして作った食事。

第5回 ヤリノ(赤阪正敏)さんについて

ヲキンキツマ ありがとうございます。

今回は、ヤリノ(赤阪正敏)さんについてお伝えいたします。



【K-PVT・講座運営 担当】

担当されている部門を、専門的にとても熱心に探求していることに加え、他部門のことにも積極的に携わり、KIRの真の願望の達成に向けて、ご尽力されています。

Q1. ヤリノさんにとってK-PVTとは

A1.

全てを理解できていなくても本当は全て知っているもの。

Q2. ヤリノさんにとってKIRとは

A2.

自我を越えてゆき、ひとつとなり、世界を光で満たすために与えていただいたギフト。

ヤリノさんの熱意とあきらめない姿勢を目の当たりにすることで、自分を守ろうとしたり、諦めたり、周囲のせいにしてしまう、、、自分はこのような反応に埋もれていたんだな、と気づかされることが何度もありました。これはヤリノさんの光の質の現れにより、他者がその光に包まれている。そのように感じます。

ヲキンキツマ ありがとうございます。



第5回 葉を食べる、根を食べる、種を食べる。多様性の素晴らしさ

ヲキンツケオありがとうございます。

最近の今治畑では、昨年の10月に種蒔きをした空豆が実り、キオマ食堂に提供し、みんなで食べました。

空豆は、種の部分を食べる野菜です。

空豆はマメ科ですが、例えばアブラナ科で考えてみると、小松菜は葉を食べる、もしくは菜の花を食べる、大根は根を食べる、カブは根を食べる。

他にもアブラナ科の野菜はたくさんありますが、根や葉や種を食べるものと色々あります。

小松菜は菜の花が咲きますが、カブも菜の花が咲きます。見た目は大変似ているので、同じグラハがつくった植物かなと思ってしまいます。

根や葉や花や植物によって食べる部分が違うことに、植物の多様性を感じます。一つの野菜で根や葉や花や種のすべてを食べたら、楽しめるのと思ってしまいます。

もしくは、数種類の野菜をつくれれば、それで十分なのでは？と、色々を楽しむことを思うこともあります。

でもこの世界には、何百、何千種類と野菜や果物などの植物があります。

いろいろな種類の植物を創造することに豊かさというものがあり、真の豊かさというものは、いろいろな価値がある多様性にあるのでは？と思います。

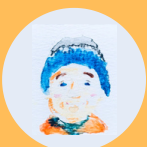
人も色々な人が存在して、みんな一人ひとりが源であり、みんなそれぞれの世界を創造し尊厳があります。

みんながいるから多様性があり、豊かさ繁栄がある。

普遍意識という単一の絶対な存在が創造する世界の全ては、多様性のある相対世界であることは、とても興味深く感じます。

普遍意識がこの世界に絶対的なものを作らないで変化する価値を創造したことは、普遍意識の潜在能力を現したものでないでしょうか。

ヲキンツケオありがとうございます。



第5回 大三島の水

ヲキンワナム

ありがとうございます

大三島もすっかり新緑の季節となり、草木の成長するエネルギーが日に日に濃くなってきています。毎朝、夜明けとともにキジやホトトギスの鳴き声が鳴り響いています。

大三島の各集落には、昔から共同井戸や個人井戸があるそうです。今でこそ上水道が引かれ水に困ることは少なくなりましたが、昔から深刻な水不足に悩まされていたそうです。

大山祇神社の後方の山はかつて、全集落の水源となっており、溪流は絶えず水が流れ、住民たちは農耕に勤しんでいました。

しかし、藩政時代から明治期にかけて山林の乱伐により禿山化が進み、豪雨により土砂が流出し、土砂崩れなどを引き起こして田畑などが流出する事態が続き、山からの水も欠乏するまでとなりました。その後植林などで、山林は緑になり水源林としての機能は戻ってきました。

しかし、現在、緑にはなっていますが、放置されている山林が多く見られます。

乱伐以前の昔の人々は長らくこの水源林を維持するために、山を御神体として、山林を整え、人と水との関係を保ってきたのだと思います。

私たちは水を通してこういった循環に意識を向けることが大切であると感じます。

ヲキンワナム

ありがとうございます



食べると元気になるのは、味噌汁。具は何にしようかなー。

第5回 間

ヲキンヤリノ ありがとうございます。

先日、朝の口上儀礼後にお話をさせていただく機会があり、「間（ま）」について触れました。ンヤン先生のご著書『生命礼賛』に、ギャップ、つまり「間」について書かれているページがあります。KIRに入る前、そして移住する前からヤリノはこの内容がずっと気になっていました。

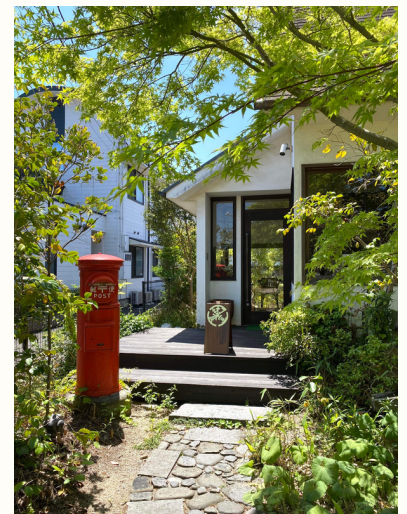
「間」とは、言葉や形として表すことのできない、それを知るものだけが知る活動の源と書かれています。

コトハの知識ではK-PVTにおける光の体験や作法にあたるものであり、反応の繰り返しを消滅させ、自身の真実に目覚め、現すこととも言えます。

また、同著には「シナプス前部とシナプス後部との間には、わずかな『すきま』すなわちギャップがあります」とも書かれています。つまり、私たちの体では「粒子化・光への還元・再創造」が毎瞬間行われているということです。

この原稿を書くために、ヤリノは必ず1日寝かせています。翌日見るとそこにたくさんの反応があることに気づき、伝えたいことが明確になってくるからです。本や講座の知識がK-PVTという体験と結びついて開かれていく一つのプロセスとして、この文章を書かせていただけることに感謝します。

ヲキンヤリノ ありがとうございます。



キオマ食堂の看板を作らせていただきました。現地に来られた際はぜひご覧ください。



第5回 毎日2回K-PVTをする

ヲキンワトホ
ありがとうございます。

毎日2回のK-PVTの実習を規則的に行うことが、非常に重要です。

習慣的な普遍意識とその響きの体験が、こころを静寂と至福で満たします。

それにより自我や理知が安定し、神経系の機能が正常化し、五感の働きが鋭敏化します。自身の意思をはっきり自覚し、欣びをもって実現していけるようになります。

その日のストレスの浄化につながり、深く良質な睡眠をもたらします。

ヲキンワトホ
ありがとうございます。



食べる元気になるのはいちご。いちごが好きだから。

第5回 たからもの

ヲキンナエン
ありがとうございます

先日、口上儀礼当番でお話したことがある、ナエンの祖母の7回忌がありました。身内が言うのもナンですが、私たちの自慢の素晴らしいおばあちゃんでした。私の友達にも同僚にも年齢を問わず大人気で、短い入院先の病院でも、いつもにこにこ笑顔が可愛いと評判で、看護師さんたちのアイドルでした。今、令和の時代ですが、祖母は大正昭和平成を生き抜いた根性のある人でした。時代と共に、新しいことも柔軟に受け入れ、生きること意欲的な人でした。小柄な体でしたが、たくましく強く、筋の通った粋な人でした。ハイカラでユーモアのセンスを持った、面白くて楽しい人でした。先を読んで行動する賢い人でした。お茶目な愛されキャラで、チャーミングな素敵女子でした。そして確かにおばあちゃんには効力が備わっていて、しかも強かった。それを惜しげもなく自然に発揮していたと、知識を得た今は納得できます。

亡くなって年月が経つにつれ、一層その偉大さ素晴らしさがどんどんわかってきます。私たち家族は、彼女についてほんの一部しか知り得ませんが、その人生は奥深く尊く、人の値打ちは後からじわじわ効いてきます。大正生まれの祖母はもちろんコトハの知識も、K-PVTの実習も知らないまま亡くなりましたが、一番身近で自然知性に添ったそのあっぱれな生き方、生きざまも死にざまもみせてもらったことは、わたしの財産になっています。ひとがひとに与える影響は計り知れないという事、亡くなってもなお、思わぬ影響を誰かに及ぼしているという事が身に染みんでいます。そして、おばあちゃんの名前の一文字が、ナエンにもあることに気づいてから、このミコトオンが一層好きになりました。

全て先生から教わることばかりですが、わたしたちは、自身が光であるを知っています。それを現すことで、どうなるか知っています。立ち止まったとき、救いにも確信になる知識や向かう先が同じ仲間がいます。忘れていたことを思い出すきっかけを得ています。今日も、意図して生きます。

ヲキンナエン
ありがとうございます



食べると元気になるのは、おばあちゃんのコロケ、
(幻の味！俵型でコショウが効いてた)

第5回 その5

ヲキンチケエ
ありがとうございます。

チケカフェでは、前回触れたいちごフェスを継続しながら、5月20日の祝祭に向けて、達成の証を捏造、じゃなくそれらをテーマにした菓子を作る週間を開催しています。すぐ終わるかもしれませんが。

青銅色の地下水に見立てた寒天ゼリー。沈む太陽はバターナッツのちびタルト。ピンク色と薄茶色のまあるい白玉団子で、赤土と月を兼用し、竹の代わりに庭の笹をぶっ刺して、あんこトヴィーガンカスタードで地層をあらわし…といった具合で、そのままやんげ、と言われたらそうなのですが、これらを全体として食べてみると、謎のおいしさが生まれるようなのです。ちけえはよくわかりませんが、食べた方がそうおっしゃるのですからそうなのでしょう。食べたことない味。こんなんどこにも売ってない。便宜上「ぜんざい」というカテゴリーに入れてご紹介しましたが、そもそも名前もいらないのかもしれませんが。

その日は、開店前に白玉団子の生地を作り、お月さまをイメージしながらいくつか丸めたあと、開店準備や講座運営の業務をするため、キオマ食堂のナエンさんに仕込みを引き継ぎいていただきました。準備が整い、ほっとしたところでナエンさんの方を見ると、ひとつひとつ丁寧に丸められたお団子が、静けさをもって整然と並んでいる様子が目に入り、言葉としては「うわーめっちゃかわいいやん」といった粗い表現でしたが、そこに見る繊細さ、どこかチャーミングな様子から、光の質の現れを垣間見たような気がしました。

おそらく彼女にとってはごく自然な行為だったのだろうなあということ。自身が創造の源、という観点からすれば、もしかしたらその一連の流れは、お互いのカミの証と繋がっているのかもしれないなあと思ったりする今日この頃です。

続く（定番）。

ヲキンチケエ
ありがとうございます。



食べると元気になるのは、「効力おむすび」
裏ちけえが元気になるのは「エクレア」です。

コトハを学び、ミコトを生きる

ワラン

第3回 心と環境

ヲキンワラン
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ワランです。
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第3回です。

私たちは、毎日の規則的なK-PVTの実習で自身の内側の光とその具象化（響き）の体験を繰り返しています。これによって心は次第に浄化され、自身の真実（純粋な思い）を感じるようになります。そして、この純粋な思いは、活動を通じて外側に現すことによって、他者につながり、欣びを広げるようになっていきます。このような活動を「ミコト」と言います。

今回は、心と環境についての聖マハリシ・マヘーシュ・ヨーギの言葉を紹介します。

どのような環境でも、絶対に悪いとか、絶対に無益だと考えられるものはありません。もし、心がその環境を活用できていないとしたら、それはその心自体に弱さがあるからです。たとえば、塵や埃だらけの部屋にある人が座しているとします。もし、その人の心が満足と喜びと平和の中にしっかり浸っているならば、その人はそういう美しい質をまわりに放射するだけで、塵や埃には注意を払いません。あるいは、部屋の掃除を始め、埃を拭き取ります。この掃除の最中にも、その人は惨めな気持ちにはなりません。それは、埃の一つ一つでさえも、その人の心の喜びを反映しているからなのです。

ヲキンワラン
ありがとうございます



食べると元気になるのは、作る人や食材、調理の過程の欣びを感じるから。

お便りコーナー (読者のコラム・トキンさん)

先日の朝の口上儀礼で、トキンさんの移住についてのお話を聞き、お便りコーナーでの執筆を依頼させていただきました。テーマは「今治への移住について」です。皆さまぜひお読みくださいませ。

ヲキントキン
ありがとうございます。

わたしは2022年8月に今治市へ移住してきました。
賢くやさしいルートラーナの皆に支えられて、時に苦しみもあるけれど、たくさんの喜びもあり、一年前の自分からは考えられない生活をしています。

変化の加速の流れに伴い、たくさんの新しい知識や技術を教えていただき、また記憶の再創造の診察を受けるなどして、自身も周りもどんどん変化していると感じます。同じ知識を共に学び、実践している仲間と過ごすことで、知識をすぐに体験でき、毎日が気づきに溢れています。

時間創造マスター講座の基礎編を受講してわかったことは、虚しさや悲しみ、みじめさを抱えて生きてきたこれまでの過去は、すべて今のためにあったということです。さらに、この先の未来のために学ぶべきことが明確にあり、幸福の拡大ってこういうことなのかもしれないと感じています。

もちろん、移住をするとなると希望を感じつつも、不安や葛藤、怖さがあると思います。この葛藤は「知の心と情の心」を発達させる機会となります。わたしの移住の際には、先生から「知の心と情の心の葛藤があるのは当然だけれど、最終的には知の心で決断してほしい」とのお話をいただいたことがあります。

先日の、2023年4月27日木曜日の夕方頃から、今治市の次元がさらに変化し、明るく軽く、柔らかい雰囲気さらに広がったというお話がありました。
今後、新しい時代を迎えるにあたり、明るさの広がっている今治市へ、ひとりでも多くの方が移住を検討していただけたらと思います。

ヲキントキン
ありがとうございます。



トキンさん、ありがとうございます。
KIRでは、コトハの知識を学ぶルートラーナ創造活動をするために愛媛県への移住をお考えの方に向けて移住者ミーティングを開催して参ります。

第5回 大きなギフト

ヲキンキリヲ
ありがとうございます

先日、ルートラナーナ創造活動グループのミーティングで、ンヤン先生からメンバー全員の役割が明かされました。

その発表を受け、KIR内でも、今後は皆がその役割に沿いながら活動を行うこととなります。

自身の役割を聞いた感想は、「・・・やっぱり！」であり、心がとても軽くなりました。なんというか、とても解放された気がしたのです。

今までキリヲは、自身ではない者になろうと無駄な努力をしてきて、自分を否定してきたのだな、とも感じました。

他者に対しても同じことをしてきたのだと思います。

キリヲに役割があるように、他者には他者の役割があることを知れたことで、他者の尊厳を尊重しやすくなった気がしています。

他者の尊厳を尊重する。それはきっと、「他者を手放す」と同じことで、もしかしたら、この先いつかキリヲも「他者を手放す」ができるようになるかもしれない、と希望を持つことができた。

次回のキオマ通信は、冒頭の役割発表後に執筆された原稿を掲載することとなります。

それぞれの役割に目覚めたメンバーの原稿に、なにか変化はあるのでしょうか。

毎回決められたテーマの中で欣びを現すのは、時に窮屈で、大変なことかもしれませんが、毎号の一番の読者として、皆の原稿を楽しみにしているキリヲでした（もちろん表紙のイラストも）。

それでは、次回は約2週間後のハノアのク、新月の日にお目にかかれますよう。

最後までお読みくださり、ありがとうございます。

2023年5月6日、ユリエのハの満月の日に。7次元に目覚めたという今治より。

ヲキンキリヲ
ありがとうございます



食べると元気になるのは、炊き立てのご飯。
でも最近は、ごはんを食べる時より、人のごはんを作っている時のほうが元気。



KoToHa *Integral Research*